

複合市民施設に関する調査特別委員会記録

令和6年8月28日（水）午前9時58分～午前10時55分（908会議室）

○出席委員（11名）

委員長	小松 良行	副委員長	佐原 真紀
委員	浦野洋太朗	委員	佐藤 勢
委員	根本 雅昭	委員	二階堂利枝
委員	後藤 善次	委員	沢井 和宏
委員	川又 康彦	委員	村山 国子
委員	真田 広志		

○欠席委員（なし）

○市長等部局出席者（なし）

○議題

- 1 行政視察の振り返り
- 2 今後の調査の進め方について
- 3 その他

午前9時58分 開 議

（小松良行委員長）ただいまから複合市民施設に関する調査特別委員会を開催します。

初めに、行政視察の振り返りを議題といたします。

先日行いました視察について、川崎市における議会図書室についてや、その他議場傍聴席に常設した音声認識システムによる字幕表示、また川崎市、下妻市の両市においては電子採決システムの導入についてを中心に本日皆さんからご意見をいただきたいと思いますと考えております。

まずは、議会図書室について、次に傍聴席に常設した音声認識システムによる字幕表示について、そして電子採決システムの導入についてと、この3つについてご意見をお尋ねしていこうかと。それぞれにお尋ねしたいと思っておりますが、1件ずつよろしいですか。

では、お一人ずつ順番にご意見を頂戴できればと思っておりますけれども、初めに議会図書室についてお尋ねしてまいります。

真田委員からよろしいですか。

(真田広志委員) 川崎市、非常に図書が充実していて驚いたところでした。行政の規模なんかもあるかと思いますが、ぜひ福島市議会のほうでもできるだけ市民の貸出しなんかも含めてできるような、しっかりした図書室を造っていく必要があるなという感じがいたしました。

それから、メモがちょっと見当たらなくなってしまっていて、取りあえず以上です。

(小松良行委員長) また一回りして、追加がありましたらご発言ください。

(川又康彦委員) 私も真田委員と同様に、川崎の図書室については規模観というのが公費の部分もあるのでしょうけれども、非常に充実しているなというところにまず驚きを感じました。福島市の図書室においても一般の方にも公開していけるのだということで、その点は参考になる部分もあったのですが、1つ気になった点としては、市民の方が閲覧する場合には、事務局の職員が1人つかなければならないということで、その辺の運営の仕方が一般の図書館とはまた違うところで、そこまでしてやる必要があるのかというのは正直感じる部分がありました。あとはブースがあった問題なんかは、建てつけが福島市はもう決まっているのでできないとは思いますが、羨ましいなとは思いました。

(根本雅昭委員) まず、議会図書室全体について、配架の工夫ということで、地震への備えをしっかりしているところが印象に残りました。震度を自動的に感知して、何かかしゅっとバーが下りて、しっかり落ちないような備え、また蔵書一覧については、オープンデータとして一般の方に公開をすることで、誰でもインターネット上で見るできるようになっているということで、利便性の高さが非常に印象に残りましたので、こういった取組は参考になるのかなというふうに感じました。

あと市立図書館の連携についても取り寄せる図書館によって日数は違うものの、非常に利便性、即日から3日程度ということですので、そんなに気にならない程度で取り寄せが円滑にできているという印象を受けました。

また、一般開放については、川又委員と同じで、先ほどありましたように、運営の面、要件等かなというふうに思います。

また、個室ブースは同じです。もう既に当議会の議場の中は決まっておりますので、これからはあれですけども、そういったものも設備としては先進的なものだなというふうに感じてまいりました。

以上です。

(村山国子委員) この時点で、もう既に言い尽くされたかなという気がするのですが、やっぱり地震に対する備えというのが、まず、書庫がそんなに高くなかったですね。そして、上3段ぐらい防止柵が入っていたというのには、やっぱり今後福島も地震が多いので必要だなというふうに思いました。

あと川崎市立図書館との連携もきちんと横をつくってやっているということと、やっぱり市民への貸出しがちょっと職員の負担が重くなるのかなというふうに思いました。

あと川崎の場合は広さもしっかりしていて、ブースが4個あるということで、個室ブース、ワーク

スペースみたいなのがあれば、図書館の利用率が上がる可能性があるのではないかなと思って、余裕があるのだったら、後づけでもできればやってもらえればすごくいいなというふうに感じました。

以上です。

(後藤善次委員) 今、図書館だけですよね。

(小松良行委員長) はい。

(後藤善次委員) 分類が分かりやすい。

以上です。

(二階堂利枝委員) ほとんど出ているのですが、全てが立派だったので、川又委員がおっしゃるとおり、羨ましいの一言だったかなと思います。

(沢井和宏委員) 私からは、個人のスペース、大変羨ましいところがありますので、本当に後づけでもいいので、造っていただければと思うのですけれども。

あともう一つ感心したのは、当局の資料を定期的に議会図書室に整備するようなシステムができているということは、大変我々も当局に一々問合せしなくても見られる資料があれば、それだけ当局の負担も少なくて済むかなと思うので、そういうのは見習うべきかなと思っております。

以上です。

(浦野洋太郎委員) 沢井委員もおっしゃったとおりで、当局の部分というのは非常にいいなと思いました。

あと入り口のところに委員会コーナーということで委員会別にしてあるのも、市民利用の観点でもありますけれども、我々議員の立場でもそういったのは利用しやすくっていいなというふうには非常に感じました。

(佐藤 勢委員) 蔵書が多いというのは非常に魅力的かなというふうに思っているところです。なので、福島市としてはそこまではなかなか難しいかと思うので、市立図書館との共有だったりとか、例えば電子図書というのもやっぱり必要になるかなというふうに思って、その辺りはやっぱり進めてもいいのかなというふうに思ったところでした。

以上です。

(小松良行委員長) では、ただいまのご意見を整理しますと。

(真田広志委員) 追加いいですか。

(小松良行委員長) どうぞ。

(真田広志委員) 申し訳ありません。

今回川崎、当然機能的なものもあるのだけれども、議員の希望をかなえた蔵書購入というものも行っているということで、当然議会図書室の目的の中には、議員の政策立案機能というものをしっかり高めていこうというものも入っているかと思うので、そういった意味ではそういったものに資する図書等の導入をしていく、そういったシステムをしっかりつくっていただければなというふうに

思ったところですよ。

それから、沢井委員からありました個人スペースの充実、当初特別委員会を立ち上げたときに、前のときだな、4回ぐらい前の特別委員会だと思うのだけれども、当時はそういった個人スペースみたいなものをしっかり充実していこうということで、例えばそこにプリンターなんかも置いたりとかという、そういったことも検討されていたのだけれども、最終的にそういったものはなるべく予算の関係上、また簡素化を進めていこうという部分で少しずつ削られていったかに思っています。これからでもというか、やはり独立した場所でそういった検索など、またいろいろしっかりと作業ができるような、そういったスペースも一つ必要なのかなと思ったので、意見として申し添えておきたいと思います。

(小松良行委員長) ありがとうございます。

(後藤善次委員) ちょっと確認したかったですけれども、川崎で書籍の追録代が年間予算で173万4,000円。福島の場合の追録代とか当初の図書をそろえるための予算というのですか、それはどういう形になっていくのか。

(小松良行委員長) 事務局、資料ありましたね。

(議事調査課調査係長) 福島市の予算につきましては、まず経常費で申し上げますと、追録等につきましては令和6年度で申し上げますと2万5,000円ほどの金額となっております。一般の図書代といったしまして経常費ベースは9万円ということになってございますが、今年度につきましては複合施設の移転というものがございまして、50万円の予算がついてございます。

以上でございます。

(後藤善次委員) イメージとしては、今のは今あるものを精査して、残すべきものを残すというイメージで私はいたのですけれども、それに対して来年から追録分を予算請求してやるには、今年度末に予算を準備するという、そういうことになってくるのですか、福島の場合は。

(議事調査課調査係長) 福島市の場合ですと、次年度の予算要求の際に図書代として予算を要求していくというようなことになっています。ですので、その予算要求の中には追録代も含めて、一応購入費ということで予算要求の形になっています。

以上でございます。

(後藤善次委員) そうすると、来年のオープンに向けては、現状の図書を準備して、その後皆様から何らかのご意見を聞く機会を持って、改めて再来年度の予算として準備をしていくということになるのか。

(議事調査課調査係長) 50万円につきましては、令和6年度、今年度の予算となっておりますので、今年度の予算の中での選書という形になってくる予定でございます。

(根本雅昭委員) 新議場に移行する際、または図書が増えてきた際の処分について、結構それぞれの議会で課題があったというふうに聞いてまいりましたので、その処分方法、捨ててしまうという事例

もありましたので、その辺の検討も必要かなというふうに感じましたので、その辺お願いできればと思います。

（小松良行委員長）要望。

（根本雅昭委員）それどのようにするのか。要望というか、検討が必要なのかなという。

（村山国子委員）例えば川崎の資料で保存の期間というのがきちんと示されていたのです。福島市がこういうのがあれば、そのとおりにやるだろうし、なければ今後必要なのかなというふうに思うのですけれども、どうですか。

（小松良行委員長）今後そうした、ただいまいろいろご意見のある中ではありますが、図書委員会というわけではないですが、図書室の管理運営規程を今後定めていく必要が当然あるかというふうに思っておりますし、この後の皆さんとのご議論の中で意見を交わしたいと思っておりましたところでしたので、その中に包含されてくるのかなというふうには思いますけれども、その中でちょっとまた今後検討を進めていくと、この委員会の中で調査を進めていくということになろうかと思っておりますので、その中で議論のほうを充実させていければなと。よろしいですか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

（小松良行委員長）では、図書室については、すばらしい施設でありましたことから、川崎市においては図書室については充実していたというふうなところで、可能な限り書籍の充実に向けた取組の必要性やまた議員各位がゆったりとそこで調査研究、検討等ができるスペースがあればいいなといったご意見であったり、それから当局の資料とかがシステム整備も必要になってくるのでしょうけれども、電子書籍との関連もそうなのですが、充実させていければよいなといったご意見やそれから市民の閲覧についてどのようにあるべきかと、そして併せて図書館との連携というものも充実させていく必要性というふうなものに言及いただいてきたところでありますし、これら先ほども申し上げましたけれども、また今日の協議の後段のほうで議会図書室の管理運営等についてをまた議題としていきますので、その議論の進捗の中で、様々な課題、要望等についてどのようにしていったら充実できるかということについて、さらに調査を進めていく必要性を感じ、また進めていくべく調査してまいりたいというふうに思っております。

雑駁なまとめ方になってしまいましたが、そのほかにもあと3点、調査しなければなりません、次の議会傍聴席に常設した音声認識システムによる字幕表示についてを皆さんからご意見をいただければと思います。

今度反対側からでいいですか。

（佐藤 勢委員）実際に見させていただいて、非常にスムーズに字幕が出ていたのかなというふうに思いました。ぜひこれは福島でもすぐにでも導入できるものではないかなというふうに感じたところです。

あと言い回しの漢字の間違いとか、そういったところがあったときに、ちょっと不安になるところ

はあると思うのですが、そこだけ心配なところではあった感じです。

以上です。

（浦野洋太郎委員）今の議運とかでも話があったところだとは思いますが、文字起こしの正確性というのは自分が想像している以上に正確なのだなというのを非常に感じました。

あとはイメージのしやすさという部分では、何かもっとリアルなタイミングの、自分でも動画とかそういったものを見ておきたいなというのは自分がイメージする上で、今回の施設だけでなく、そういうのは必要かなと思いました。

（沢井和宏委員）思ったより反応がよかったなという感じです。あれを導入してから、さらにいいものが出てきたときに、適宜更新できるような、そういうシステムでなければならないのかなとは思いました。

あともう一つは、せっかくな同時字幕スーパーなので、できれば議事録との関係で二度手間にならないように、例えば議事録でもそっち、同時に起こせたら手間が省けるのかなと思うのですが、もしかしたら字幕と議事録は、議事録に起こすやつは別なのかなと思うと、何となくもったいないななんていう感じがしているのですが、そこらのシステムがちょっとよく分からないのですが、なるべく手間がかからないような、せっかく瞬時にあれだけ、なんだったらそれをそのまま議事録のベースにできるのかななんていうのは感じました。

（二階堂利枝委員）字幕の点は、自分がなまっているので、なまりが本当にどこまでその場で変換されるのかというのがちょっと試していなかったので分からないのですが、あと表決のシステムのタイムラグというか、次の議題に入るまでの切り替わるまでの時間が結構10秒ぐらいかかるという話で、それを今までの議会のことを考えると、次に入るまでに結構一つ一つに移るまで時間がかかってしまって、画面が切り替わるのが、ちょっと待ち時間が最初の頃慣れなくて、何か嫌な流れになってしまうのかなというのが、本当にまずやってみないと分からないのですが、どんなものなのかなと、それが何か少し不安になりました。

（後藤善次委員）議案の採決のときの表示について、議案名を全て表示するのではなくて、第何号だけの表示でもいいのかなと思いました。

それから、保守点検について、事故の対応は迅速に行われているというようなことだったので、事故の対応というのがどんなものが予想されるか分かりませんが、実際に議会がスタートしてしまうと、その間の事故対応というのは結構大変なのだろうなと。アナログに切り替えるなんてことが出てくるのかどうか分かりませんが、その辺のイメージがちょっとつかめなかった。ただ、人を派遣してきちんと対応できるというような文字では表記されておりましたので、その部分についてはそういう対応を求めたいなと思っております。

あとライブ中継の字幕の実施については、とてもよかったのではないかなと。あれもやはり福島市でも採用していくべきだと。

それから、録画の字幕について、川崎についてはきちんとしたものが出来上がるまでは暫定的な形で行っていて、きちんと文字起こしができた段階で切り替えるというようなことでしたので、福島もそういう対応にせざるを得ないのかなという気はします。

それから、議長が挨拶している画像があるのですけれども、そのときに議長の顔の画像と挨拶をしている画像と、下にはきちんとその部分が起こされたという。やはりしゃべっている方の映像が映って、下に字幕が入るというのは見ているほうとしてみると、とても分かりやすいのかなと思いました。

それから、傍聴席の文字情報については、始まる前の段階で画像表示として変換の誤字がありますということはきちんと表示をして、傍聴者の方にもご理解をしていただくという、ひとつそういうことはやっていかなければならないのかなと。そうすれば、脱字は分かりませんが、誤字の変換については、皆さん認識をしていただけるのかなと思いました。

以上です。

(村山国子委員) 議長席のほうのモニターが165インチですごく大きくて見やすいなと思って、福島は何インチだろうと思ったら福島は200インチだったのです。なので、よりでかくていいなと思いました。

傍聴席用のモニターの音声認識システムで文字表示をとというのが、ちょっと職員の方に聞いたら、速いのもオーケー、方言もオーケーと一応は言っていたのです。一応真田さんでしたっけ、誰でしたっけ、試験でやったのは。

(川又康彦委員) 私です。

(村山国子委員) 正確性が高いなというふうに思いました。

傍聴席のほうが、川崎が86インチだったのです。福島は50インチだったので、あそこに座ったときにそんなに大きく感じなかったけれども、福島は50インチということは、ちょっと小さめになってしまふかなと、そういうふうに感じました。

(根本雅昭委員) 最近の音声認識は非常に精度が高くて、当日試した際にも十分に実用的だなというふうに感じました。

その中で、実際に運用して現在使われているシステムを見学させていただきましたので、ああいった状況に至るまでに多分単語の登録ですとか、いろいろとカスタマイズされていると思いますので、福島市特有の何か固有名詞を登録する必要があるのが運営の面で出てくると思いますので、そういった議論を今後どこで登録をして、どういう経緯でカスタマイズしていくのか、そういったところは今後の課題になってくるのかなというふうに感じました。例えばもりんシルバーパスポートと入れた際に、もりんがどういうふうに変換されるのかとか、そういったところですか。

以上です。

(川又康彦委員) 文字の表示については、川崎はちょっと福島とはシステムが違うということで、それを考えた上で評価する必要があるのかなと思いましたけれども、福島で一度試したときと同様に、変換の精度はそれなりに高いのだなというのは改めて感じました。

それと、文字について、川崎ではないほうで同じシステム導入のところの、福島市では有線で議場のほうはやりますけれども、無線のほうも委員会の部分はあちらで導入しているというのがありまして、委員会が兼任されているということで、一つの部屋だけに置いているので可能なのかなという気はしましたが、各委員会室に無線のやつか何か、あのシステムのやつを1個置いて運用するというのにはありなのではないのかなというのを感じました。それによって文字起こしとか、そういった部分も可能になってくるのではないかなというのを感じました。

以上です。

(小松良行委員長) ということなのかな、もう一回。

(川又康彦委員) 福島では委員会にあのシステムを入れる予定は、今のところありませんけれども。ただ、拡張するという部分で、議場以外の利用というのも、例えば委員会室でマイク1本を置くというのはもう決まりましたので、そのマイクをPM-5000のシステムを入れて行うことで、文字起こしとかそういった部分も委員会の中で可能になるのではないかなと感じました。

(真田広志委員) まず、委員会の運用もあるかなと今思ったので、しっかり検討する必要があるのだろうなと。

それから、文字起こし、なかなかやはり精度が高いなど。福島で導入予定されているのもそこそこ精度が高かったのですけれども、やっぱり運用するにあたって、議会用語だったりとか様々な固有名詞なんかもしっかり認識させていく必要があるなという、試験運用の際にある程度そういった誤差がないように、しっかりと事前準備をしていく必要はあるのだろうなということを改めて思ったところでは。

それから、あと会議録、議事録作成にあたって、今も業者さん、それからあと職員のチェックもしっかりやりながら、かなり時間をかけて、手間をかけて今行っているところなので、そういった負担がしっかり減らせるような形になっていけばなというのでも改めて感じたところです。そのほかもあるけれども、取りあえず以上です。

(村山国子委員) 福島市は、傍聴席のモニターが移動式になっているのです。50インチで小さいのではないかというのと、何か移動式で、高くなると傍聴席が見えないし、低いと後ろの人が見えなかったりするのかなと、やっぱり私は固定がいいのかななんて一瞬思ったのですけれども、構造上難しいのは承知です。

あと車椅子席が前にあるので、そういうのでも移動式だと邪魔になる可能性もあるのかなと思ったりして、川崎のを見てきちんと固定して、こっちを向いていると見やすいなと思いました。

(小松良行委員長) 追加でございますか。よろしいですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) ただいまのご意見をまとめてみたいと思いますけれども、思った以上に表示、音声認識についてもスムーズであったという感想でありました。

ただ、今後文字起こしの更新に際するシステムの向上、メンテナンスも含めなのでしょうけれども、将来的に課題を持ちながら進めていく必要性も感じていただけたかというところであります。

あと表決システムと、それから表決に対する議会運営上の問題になってくると、この点での不安というのは当然持たれるかというふうに思っておりますが、これらについては範疇として議運の対応になってくるのかなというふうに思っております、そちらの中で今後どのようにしていくのか、現在でも表決に対しては表示の在り方について、まさに議論の最中かなというふうに理解するところであり、議会運営委員会での協議のほうに我々のほうとしても進捗について傾注していければなというふうに思っております。

先ほどのシステムの保守等についての課題や、それから事故になった際、ないことを祈るばかりですけれども、これらの対応等々の万全を期すべく、どのようにすべきか。また、モニター関係では、議場のほうは非常に大きな画面で見やすくされているけれども、傍聴席のほうについては可動式であり、また小さいと。その配置については、慎重に検討すべきだといった点や、音声認識システムについてのカスタマイズ、これ設置時もそうですけれども、様々な準備が必要でありますし、日々カスタマイズについては意識をしながら、先ほどの更新の時期までということになると、しばらく日数はかかるのでありましょうが、これらに対する課題はいかにというふうなところであります。

また、有線システムで委員会質問を実施するところではありますけれども、今言った文字起こし、表示等々に関して、無線システムの導入も今後検討されていくべきではないかといったご意見や、一番は設定にあたって議会事務局の負担も大きくなるのではないかという懸念もあるところではありますけれども、この辺に関しては何か事務局のほうとしては検討されているのでしょうか。

（議事調査課課長補佐兼議事係長） 音声認識システムについてのことですが、議運でも今議論しておりますとおり、傍聴席のほうで同時に反訳を行う50インチのモニターについて2台設置するというところで議論を進めております。

村山委員からは、ちょっと小さいのではないかとか、そういったものについては、設置してみた後で台数を増やすとか、そういったものについても検討していく必要があれば、また財務部のほうと調整していく必要が出てくると思っております。

それから、議員の名前とか、根本委員からあった言葉のカスタマイズについては、福島市でこれと言ったらこういう変換というのは、その日その日の学習はしないのですけれども、言葉をちゃんと登録するということは多分可能だと思います。その辺システムのほうにちゃんと入れていくという形にしたいと考えております。

（小松良行委員長） 固有名詞、特に地区、地域名とか、大笹生なんて普通にパソコンで入れても、オオザソウと入れても大笹生と出てこないということもありますから、その点はカスタマイズしていく作業というのは日々更新が必要になってくるのかなと思います。いろいろとご意見をいただきました。ありがとうございました。

次に、電子採決システムの導入について、また意見開陳をいただければと思っております。

真田委員のほうから順にお願いします。

(後藤善次委員) 採決システム、何かさっき一緒に言ってしまった。

(小松良行委員長) では先ほど意見をいただいたもの以外でご意見があればお願いしたいと思います。

(根本雅昭委員) 導入予定のシステムはユニバーサルデザインに配慮されているシステムですので、それ以外にもユニバーサルデザインに配慮したような取組を引き続き行っていくべきかなというふうに感じてまいりましたので、色覚に異常のある方なども含めて、全ての方に分かりやすい画面表示、また運営ということをすべきだと感じましたので、そういうことでお願いします。

(川又康彦委員) 感想というか、意見開陳の部分とはちょっと違うのですが、私、議運にも属しているのですが、議運で基本的に内容についてどういうふうにしていくか決めていくときの議論の中で、実際にそれを具体的に見たのって、議場の中で同じシステムを体験して実際に見たのは我々だけなのですね。同じ会派の方にできるだけ具体的にお伝えいただいて、議運の議論が何か何も分からないまましゃべっているような感じになってしまうので、そのところをぜひ皆さんのほうに改めて力を尽くしていただければなと思いましたので。

(沢井和宏委員) これは議運でももちろん話し合うことなのですが、やはり棄権と白票の扱いについて今議論されているかと思うのですが、やっぱりそこら辺が議員の中でも共通理解になって、そしてなおかつ市民の方が見たときに分かるような、そういうシステムにしていかなければならないのかななんて思っております。ほとんど賛否だけで取り扱っているということで、3つ目のボタンは使わないということだったのですけれども、だったら、棄権と白票の棄権する、そういう場合がどういう場合なのかというのはやはり規定をきちんと議論して、それを議員で共通理解しながら市民にも分かりやすいシステムになってほしいなど、これは議運の皆さんにお願いであります。

(真田広志委員) 私も川崎市でも2つのボタンしか使っていないということなのだけれども、現実には棄権、白票、また退席なんていう事例も、福島市議会の中でもあるわけで、そういったものの取扱いなんかも含めて、議運の中でしっかり議論していただきたいなど。

それから、無記名投票、川崎の規則の中で、実際に投票行為として行う場合と、それから押しボタンを用いた無記名投票、両方、規約の中に定められているので、その辺の在り方なんかも福島市議会としてしっかり議運の中で議論していただきたいなというふうに思いました。

以上です。

(村山国子委員) 最初に出席議員と欠席議員の色があったと思うのですが、今話があったのですけれども、やっぱりあれがちょっと見づらかったなという気がするのです。出ているのと欠席しているのの色分けがちょっと見づらかったなと思うので、実際のイメージと実際に出来上がった色というのがそごがあったりすると、傍聴席の皆さんもちょっと見やすいような、そういう色分けが必要かなって思いました。本当に見ないと分からないですね。私も見て、そう感じたので。

(小松良行委員長) ほかにありますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) 根本委員のほうからユニバーサルデザインという点に、また十分な取組をしているべきであろうということと、ただいま村山委員の話等もどうしていくかなというのに関連してくるのかなと思いますが、やはり見やすさ、特に色について言及がありましたけれども、それと一番大事なのは、この委員会で様々議論、また視察、研修等々も進めてきたところではありますけれども、過日全員でシステムについて見学、研修を実施したりという中で、ある程度共有できるのかなと思っていましたが、今回の議運の進捗などを見る中では、十分に私どもの調査が反映されていない部分もちょっと散見されておりますので、今後これらの連携についてどのように進めていくかというのは、ましてやだんだんと庁舎の姿もあらわになってきて、先に進めていく必要があることは十分理解するところであり、今後の課題として捉まえていければなというふうに思っています。

沢井委員から、棄権なのか、白票なのかといったところも、まさにこういったところも我々の課題と思っておりますけれども、議運での十分な今後の議論というものをしっかりと我々も課題として共有しながら、よりよい方向に進んでいければなというふうにも思っております。

以上、3点について皆さん各位のほうから意見開陳をいただきまして、ありがとうございました。ほかにはないですか。いいですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) あと、なお今後委員長報告の実施時期というふうなこともあるのですが、現段階では未定としております。委員長報告すべき頃合いになった段階で、本日いただいた意見について正副委員長手元で内容を整理させていただき、調査のまとめの中でお示しさせていただきたいと考えております。

この点について何か。

(村山国子委員) 今川崎市について3項目やったのですよね。

(小松良行委員長) いや。

(村山国子委員) あわせてやったのですね。

(小松良行委員長) 全部あわせてだったのですが、何か。

(村山国子委員) いえいえ。大丈夫です。なしで、了解です。

(小松良行委員長) すみません、進行のやり方が悪かったかなというふうに思っております。

(村山国子委員) 失礼しました。

(小松良行委員長) ありがとうございます。

では、今後調査のまとめについて頃合いを見ながら委員長報告の中でただいまのご意見についてしっかりと整理させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

では、まずは行政視察の振り返りはこれで終了したいと思います。

次に、調査の進め方についてを議題といたします。

今後当委員会で検討していく主な議題でありますけれども、前体制から調査を進め、今回川崎市の視察においても調査を実施した議会図書室の管理運営について、新議事堂への移転ももう数か月に控えていることから、具体的な検討に入ってまいりたいというふうに考えております。

そのため、まず議会図書室に関する過去の委員長報告の内容を委員の皆さんに改めて確認いただきたいと思います。資料のほう、先ほどお手元にお示ししましたけれども、GGのR6.8.28、令和5年6月委員長報告をお開きいただければと思います。

では、これらの委員長報告の要点について、まずはちょっと事務局のほうから説明をいたさせます。**（議事調査課調査係長）** それでは、ただいまお開きいただきましたGG、R6.8.28、令和5年6月委員長報告、これについてご説明をいたします。

まず、こちら委員長報告の2ページの上段から具体的な議会図書室の内容が記載されてございます。3段落目になります。こちら委員長報告の要点といたしましては、地方自治法で設置を定められている議会図書室が現状としては仮設置の状態であり、調査研究に資するために議会図書室の適正管理、機能強化に努めるものとされております。そのための必要な取組といたしましては、管理運営面、調査研究力向上のための取組、市民利用、以上の3つの視点から成るようでございます。

この3つの視点は、それぞれ1点目の管理運営面につきましては、仮称市民センターの竣工前に管理運営規定の策定と蔵書の購入、管理の基準の整備をすることが必要であること。2点目の調査研究力の向上につきましては、公立図書館との連携、レファレンスサービスなど、またICT活用について。3点目の市民利用につきましては、市民利用も対応可能とする体制整備、以上3つの視点から報告がなされてございます。

さらに、委員長報告の視点からは、図書室について管理運営等をするための議会だよりの組織の必要性の有無についても検討が必要ではないかと思えます。

要点につきましては以上でございます。

（小松良行委員長） ただいま事務局から説明があったとおり、新たな議会図書室の設置を機に、議員の調査研究に資するところを目的とした機能の強化を図るため、竣工前には管理運営規程の策定が必要であると過去の調査で結論づけているところであります。

このことから、議会図書室の管理運営等についてを議題とした今後のスケジュール案を正副手許でご用意いたしましたので、資料のGG、R6.8.28、スケジュール（案）をお開きいただければと思います。

これが①番目が本日の委員会の開催内容となっております。2番目、9月定例会議中に同委員会で議案審査を予定していることから、委員会及び決算分科会の議案審査終了後、暫時休憩の後に記載のとおり内容を協議するための委員会を再開するというふうに考えています。想定としましては、この②、③の委員会で議会図書室の管理運営に関する規程等について協議を行い、④番目として10月上旬

までに開催する委員会で当委員会の方向性を一つにできればというふうに考えております。

その後、一番下になりますけれども、議会図書室の管理運営に関する規程等、当委員会での検討結果について、10月中旬頃に議長へご報告をさせていただきたいと考えております。

以上が正副案になりますけれども、この件について何かご意見がありますれば、あるいはご質問がありますればご発言願います。このように進めることでいいですか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) ありがとうございます。

では、そのように。

(後藤善次委員) すみません、1点だけちょっと。公立図書館の当局説明みたいな、こういう形が理想であるみたいな、そういうきっかけというのはこの中に入ってくるのですか。

(小松良行委員長) ちょっと係長をお願いします。

(議事調査課調査係長) 予定といたしましては、②の議会図書室の管理運営等について①の中で管理運営についての必要性だったり、レファレンスであったり、そういったものの必要性の確認ということで、ご検討の有無をお示しできればと考えております。

以上でございます。

(小松良行委員長) よろしいでしょうか。

(後藤善次委員) 分かりました。

(村山国子委員) 川崎の要綱があるのですけれども、それも川崎市立図書館との連携なのですけれども、こっちで一方的に決めたとしても、きちんと先方に申し伝わっていなければ連携にならないと思う。そういう行ったり来たりというのはこっちで考えたとしてもどうなるのかなと。こっちで一方的にこうですよって。

(議事調査課調査係長) 市立図書館のほうとは数回打合せを行っておりまして、連携に関しては前向きな話をいただいております。あとはここで決まった内容をすり合わせしていくという作業が必要かと思われま。

(小松良行委員長) 貴重なご意見ありがとうございます。

(沢井和宏委員) 今後の進め方でよろしいですか。

(小松良行委員長) はい。

(沢井和宏委員) 図書室に関しては結構だと思うのですが、前回の委員長報告の最後のほうにも名称について今後研究していくというようなことを書いてあるのですけれども、外壁ももう取れて、大分全容が見えてきているので、仮称市民センターの名称を当委員会としてもどうすべきかという議論をしていかなければならないのかなんて思っているのです。

(川又康彦委員) 仮称ではなくなったのではないですか、仮称ではないでしょう。

(村山国子委員) 市民センターになった。

(小松良行委員長) 市民センターになって。

(川又康彦委員) 名前もあそこに入るので、この間デザイン案も出たのではないかと。思って。

(沢井和宏委員) そうでしたか、ごめんなさい。議論しても無駄ですね。会派の中でいろいろ出た中で、現にこっち東棟として使っているわけなので、建物の名前が川崎市議会でも下妻市議会のところでも、最初に建物の名称が来て、何というふうになっているので、やはりこっち東棟となっているからには、向こうは当初の計画どおり西棟で市民センターなり、西棟の市議会議場なり、議会事務局という、そういう名称の呼び方が市民の人には分かりやすいのではないかなということで進めていくべきではないかなと思ったものですから、私もちょっとうっかりしていましたけれども。

(村山国子委員) 確かに市民センターとだけ書くと、議場が入っているかどうかというのが分からないので、川崎なんかも市議会、議事堂とかと書いてあったのかな、何か川崎ではなかったか。

(沢井和宏委員) 川崎は、写真撮影した後ろには市役所と市議会があって、川崎は高いところが高層棟ということです。その手前の旧庁舎を残しているところは復元棟というらしいのですけれども、その復元棟のところに市役所と議会というのをやっぱり二元代表制として表示してありました。

(小松良行委員長) ちょっと待って。

(後藤善次委員) 当局説明でちゃんと議場が入っていたからね、議場って。

(小松良行委員長) 資料をちょっと。

(鈴木書記) すみません、6月14日の当局説明の際にサインのご検討をいただいたかと思うのですが、6月14日、当局説明というフォルダーの中に、さらに当局説明資料というフォルダーがございまして、その中に資料のほうが入っているかと思います。こちらの中に議事堂というサインも入ってございます。

(後藤善次委員) 隣の市民センターが出来上がると、こっちの建物の東棟という名称はなくなるのですか、なくなるの。

(鈴木書記) すみません、その辺はまだ当局にちょっと確認していなかったものですから、当局でもその辺検討がなされているのを含めて、今後確認してまいりたいと思います。

(後藤善次委員) 東棟だけ残ってしまうと。

(真田広志委員) こっちが福島市役所になるのですよ。

(後藤善次委員) 入り口のところ、東棟と入っているから。

【何事か呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) ただいまのご質問については、確認をして当局の考え方もお聞きしてまいりたいと思いますので、しばらくちょっとお待ちいただければというふうに思います。

では、よろしいですか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) これで議題は終わって、そのほかになって、もうその他の話もどんどん進んでい

るようですけれども、その他のその他で何かご意見があれば、よろしいですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) なければ、以上で本日の複合市民施設に関する調査特別委員会を閉会いたします。

午前10時55分 散 会

複合市民施設に関する調査特別委員長 小 松 良 行